

## アクチバシン注 注射液の調製法・投与方法について

### 〈調製法〉

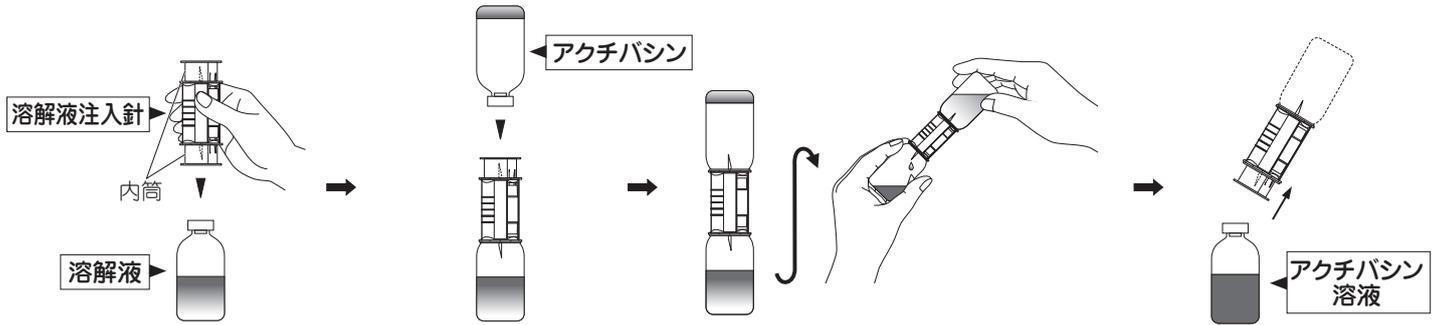
1. 溶解液注入針（連結針）を用いて添付の日局注射用水で溶解します。  
瞬時白く泡立ちますが、すぐに無色澄明になります。  
なお、本剤は溶解時激しく振らないで下さい（泡立ちが著明となるため）。
2. 上記の溶液を希釈する場合は、日局生理食塩液を用いて下さい。  
他の補液類を用いると短時間で白濁することがあります。
3. 希釈して用いる場合には、極力2400万IU/100mL、1200万IU/50mL、600万IU/25mL以上の濃度で使用して下さい。  
（本剤の主薬であるアルテプラゼは水に難溶であるため、溶解補助剤としてアルギニンを追加してあります。本剤の溶液を希釈しすぎるとアルギニンの溶解補助効果が低下し主薬が析出して白濁します。）

### 〈投与方法〉

1. インフュージョンポンプを用いて投与する場合、投与総量の10%を静脈内に急速投与（1～2分）し、その後残りを1時間で持続注入して下さい。
2. 本剤を希釈して投与する場合、添付の日局注射用水で溶解した溶液の10%を静脈内に急速投与（1～2分）し、その後残りを日局生理食塩液で希釈し、1時間で点滴投与して下さい。  
なお、本剤の溶液を先に日局生理食塩液で希釈し、その10%を静脈内に急速投与しても差支えありません。

—— 溶解後は速やかにご使用下さい。 ——

## アクチバシン注の溶解方法



溶解液注入針の本体側部を持って溶解液のバイアルゴム栓にまっすぐ深く刺しこむ。<sup>注1)</sup>

溶解液注入針のもう一方に、アクチバシンのバイアルゴム栓をまっすぐ深く刺し込む。

溶解液が上になるように逆転する。強く振らない。

溶解液の空バイアルは溶解液注入針と共に抜き取る。<sup>注2)</sup>

注 1) 溶解液注入針の両端にある内筒は、押すと本体に格納され針が露出するため、直接触れないでください。

溶解液注入針は必ず先に溶解液のバイアルに刺してください。

注 2) 本剤に溶解液全量を加え、空バイアル及び溶解液注入針を抜き取った後、静かに円を描くように回して溶解してください(強く振らないでください)。

## アクチバシン溶液の希釈における留意点

- 本剤の溶液を希釈して用いる場合は、日局生理食塩液をご使用下さい。〔他の補液類を用いると短時間で白濁することがあります。〕
- 希釈して用いる場合には、極力2400万IU/100mL、1200万IU/50mL、600万IU/25mLより濃い濃度でご使用下さい。〔希釈しすぎると溶解補助剤(アルギニン)の効果が低下するため主薬が析出し白濁します。〕